

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
フォレストキッズ稲毛海岸		8 年 3月 16 日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		机の向きや仕切りによって、支援に集中できるように工夫している。	子供の身体的成長に適合する椅子や机の提供ができていない。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		専門的支援対象職員の適切な配置による支援体制の強化。	言語聴覚士の常勤配置が欠如している為、保護者の言葉の支援要求になかなか応じられない。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切にされているか。	3	3	教室内はお子さんに合わせて踏み台などが工夫されている。	2階の教室までの外階段が危険。落ちてけがをした児童がいた。2階まで階段しかない。階段はバリアフリーに適していない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎日キッチンと清掃されている。	トイレの便座が赤紫色なので、利用を戸惑う子どもがいる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	個別の部屋ではないが、パーティションで区切られている。	とくに個室を用意していないので、事前に計画してパーティション等で空間を区切ることは可能だが、突発的な場合は難しい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	2	意見が通りやすい環境である。	定休日がないため、スタッフ間で共有ができていないので、ライン等で周知するようにしたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者からの意見等は、スタッフ間で情報交換されている。可能な限り対応している。意見が通りやすい環境である。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	職員の意見はその都度オーナーへ伝えられ、改善を図るようにされている。意見が通りやすい環境である。直接言いにくい意見を伝えられるシステムがあると良いと思う	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4	フランチャイズのスーパーバイザーからのアドバイスや評価を取り入れて改善を図っている。	第三者機関の評価は受けていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	研修の機会を積極的に設けている。	全員の参加ではない。（有償の研修などは参加できる職員数が制限されている）職員にはできる限り研修に参加できるように、シフトなどでも工夫したい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	2	工夫を凝らしたプログラムを提供している。	プログラムはHPで公開されている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		モニタリングを行い、子どもの成長に合わせた個別支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		会議を設けている。	皆の意見や支援時の状況を加味して計画書を作成するようにしている
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。			支援記録で対応している。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		支援内容は子供のニーズに沿って設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		個別に療育責任者や担当職員と相談して作成している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	子どもの様子をみながら変更している。 子どもの達成感や飽き具合等をスタッフ間の共有で係留・調整がある。	7
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別と集団を分けて支援している。 個別の時間で学習を含め子どもの特性に合わせた支援を行っている。	子どもによって差があるため、集団のプログラムには工夫が必要。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	一日の振り返りをする時間を設けて、次回の支援につなげている	時間が足りず、必ずしもできていない。 朝礼はあるが、役割分担は確認していない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		正社員、パートの区別なく、風通しの良い発言の場があるため共有できている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		日々の支援記録は正確に取っている。	支援記録から計画書やプログラムを作る参考としている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		個別の時間に、そうしたプログラムを組んで支援に取り入れている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		こうした会議には児童発達支援管理責任者が出席している。 わかりません。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		他事業所からの見学は、積極的に受け入れているように思える。 もっと広がって欲しい。わかりません。	実践の機会が少ない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		7	送迎を行っていないので、学校での情報は保護者から伝えられる事が多い。	学校と直接連携する機会がほとんどない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		利用者の大半が児童発達支援からの継続利用なので、子供たちの成長の様子はよく理解している。	そのような機会はない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		こうした利用者は、まだ、いない。	こうした利用者がいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		会議がある時には参加している。	その機会はまだない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		7	わかりません。	事業所としてはこうした機会はないので、今後検討していきたい。

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	7		わかりません。	自立支援に関わる利用者はいない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達 の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・保護者とは機会があれば常に連携している。	利用者が増えたため、振り返りで話す時間がなくなり、メール等になった。が、必要に応じて面談で対応している。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支 援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の 参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	webを通じて支援を図っている。 情報共有は行っている。	今後、機会を設けて行く。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な 説明を行っているか。	7		契約時に詳しく説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保 護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点 を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けて いるか。	7		モニタリングを行い、家族の意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説 明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を 得ているか。	7		必ず、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、 面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		相談がある場合は、適宜応じている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する 等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援を しているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける 等の支援をしているか。	3	3	通所時、他のご兄弟たちとは年齢に関 わらず交流が見られる。	定休日が無く時間を設ける事が難し かったが、今後、父母会の開催を検討 していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備す るとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合 に迅速かつ適切に対応しているか。	7		これまで苦情は一件もないが、苦情が あった場合には委員会等を通じて速や かに対応していく。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用する ことにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこ どもや保護者に対して発信しているか。	7		SNS、ブログの更新回数が増えた。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のた めの配慮をしているか。	7		HUGというシステムで直接保護者から の声を聴いている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事 業運営を図っているか。	4	3	放デイの支援時間は限定されているの で、地域交流の機会はほとんどない。	
非 常 時 等 の 対	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マンユ アル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している か。	6	1	行ったとしてもその日いない職員には 伝わっていない。	全員参加は出来ないが、情報は共有す るようにしたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発 生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っ ているか。	6	1	行ったとしてもその日いない職員には 伝わっていない。	全員参加は出来ないが、情報は共有す るようにしたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況 を確認しているか。	7		契約時に確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基 づく対応がされているか。		6	おやつ等、食べ物の提供はない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他 必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が 行われているか。	7			

心 応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		ビデオ研修を行っている。(年1~2回)	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		現在までに事例は発生していない。 周知徹底されている。	